Copyright © 2013 一般社団法人 日本機械学会

サッカー指導者の被指導経験と自身の指導との関連性の研究

原仲 碧[*1]，桑原 鉄平[*2]，中山 雅雄[*2]，浅井 武[*2]

Study of the relationship between soccer coach's perspective and previous coached experiences

Midori HARANAKA[*1], Teppei KUWABARA[*2], Masao NAKAYAMA[*2] and Takeshi ASAI[*2]

[*1] University of Tsukuba. Doctoral Program in Institute of Health and Sports Sciences
1-1-1 Tennodai, Tsukuba-city, Ibaraki, 305-8577 Japan

The Purpose of this study was to examine the perspective of soccer coach from coach's life story, in particular focus on their previous coached experiences. The life stories of 18 soccer coaches using a life story approach were described and interpreted. They also considered the subjects' past experiences in the following processes. Firstly, coach's perspective was effected previous coached experiences. Secondly, coaching experiences and playing experiences also contributed coach's perspective. The findings of this research showed the coach's perspective consists three factors that previous coached experiences, coaching experiences, and playing experiences. The most important thing was that recognition confirmed by coaches themselves from their narratives. The results suggested those narrative data need further more specific analysis and, consideration for put to practical use in the coaching field from now on.

Key Words : Coach's perspective, Life story, Previous coached experience

1. 緒　　言

指導者の持つ指導観は選手を指導していく上で最も重要な要素のひとつである．スポーツの現場において，指導者は選手のパフォーマンス向上のための重要な役割を担っており，「スポーツの指導場面では，指導者は選手や自身を取り巻く状況が時々刻々と変化する中で即座に最適な判断を行い行動に移すことが求められる（北村ら，2005）.」とあることから，指導者は，選手の対象やその時々の状況など，複雑な要素に対応し，常に選手が目的とする地点へと導く指導が求められる．北村ら(1)（2005）は日本の指導者を対象にした研究において，指導者の持つメンタルモデルが，「熟達化」，「意識化」，及び「支援」という 3 つの相互関係により構成させていることを示し，こうしたメンタルモデルは，指導経験の浅い指導者や，指導行動を再点検しようとする指導者にとっては有効な判断材料と成り得ることを示唆している．

しかしながら，指導者のメンタルモデルの形成において重要な役割を担っていると考えられる指導者の被指導経験と自身の指導との関連性に着目した研究は少ない．そこで本研究では，育成年代のサッカー指導者の指導観形成における被指導経験と自身の指導との関連性に着目し，その背景にあるサッカー指導者の知識や意図，思考を明らかにすることを目的とした．

このような取り組みは，従来の指導者に関連した研究に新たな視点を提供するのみならず，選手及び指導者を取り巻く環境を再考するための基礎データを提供することにもつながると考えられる．

[*1] 学生員，筑波大学大学院 人間総合科学研究科
[*2] 正員，筑波大学　体育系（〒305-8577　茨城県つくば市天王台 1-1-1）
E-mail: midoriaaaa@gmail.com

2.　対象と方法

2・1　調査対象者の概要

本研究では，これまでの指導者の指導観に関する研究ではほとんど用いられていない，ライフストーリー法によって指導者の内面に迫り，検討した．本研究では，指導者の選定条件を細かく設けず，様々な経歴を所有する指導者を対象者とし，日本国内の育成年代のチーム（大学含む）において監督又はコーチとして指導をしている18 名の指導者を「学校部活動」,「地域クラブ」,「J リーグアカデミー」という目的や背景の異なる 3 つの組織団体からそれぞれ数名ずつ選定した．(Table 1)

Table 1　Informant data

Name	Age	Team	License	Name	Age	Team	License
A	30’s	Local club	A	J	50’s	School club	B
B	20’s	School club	C	K	30’s	J’s academy	B
C	30’s	Local club	B	L	50’s	School club	A
D	30’s	Local club	B	M	30’s	School club	B
E	30’s	J’s academy	S	N	40’s	School club	A
F	40’s	J’s academy	A	O	30’s	J’s academy	A
G	60’s	School club	A (ex)	P	30’s	J’s academy	S
H	30’s	School club	A	Q	30’s	J’s academy	A
I	30’s	School club	B	R	50’s	School club	-

2・2 アンケート及びインタビューの概要

ライフストーリー作成のためのデータ収集は 2012 年 10 月中旬から 11 月中旬にかけて, アンケート調査及び半構造化インタビューを行った．本研究ではアンケート等による回答だけではなく,「語る」ことによって内省的な部分までを探ることが本研究を進める上で重要な点であると考え，調査を進めた．

3.　結果及び考察

18 名の対象者から得た約 17 時間の語りから 385 ページのトランスクリプトデータとしてまとめ，指導者の指導観形成や指導に関連している考えられる 59 個のライフストーリーを抽出し考察を加えた結果,「被指導経験」,「指導経験」、「プレー経験」の 3 つに分類された．(Table 2)

Table 2　Life story list

Life story			
戦術指導	指導者の情熱	考えさせる指導	講習会
指導者の情熱	指導者の情熱	選手間の競争	プロとしての姿勢
指導者講習会	学ぶ姿勢	ナショナルトレセン	受けた言葉
他の指導者からの影響	プレーの文字化	観ること	海外チームの指導現場
自主性	選手との距離感	他の指導者からの影響	コミュニケーション
選手兼指導者	他の指導者の姿から	教える側として講習会	トレーニング計画
他の指導者からの影響	海外の指導現場	他の指導者からの影響	指導者の情熱
競技に取り組む姿勢	体力トレーニング	トレーニング計画	プロとしての経験
他の指導者からの影響	講習会	物事の考え方	指導者としての姿勢
考えてプレーすること	指導者の情熱	選手との関わり	プロとしての経験
トレーニング計画	他の指導者の影響	他のチームの指導現場	サッカースタイルの変化
指導者の情熱	サッカーに対する姿勢	試合観戦	サッカーへの姿勢
自身のプレー経験	サッカー専門指導者の不在	選手への要求	指導者のスタイル
体力トレーニング	他の指導者からの影響	選手の個性を考えた接し方	海外チームの指導
他チームの指導現場	講習会での出会い	サッカーの楽しさ	

（1）被指導経験
M 氏のライフストーリー／高校部活動（男子）
〈プレーの文字化〉
M:個人戦術的なことも全て文字化して，あのー，こう，それを書類のような形にして自分にこう，与えてくれて．で，それを見ながら，こう，サッカーを頭でやるんだっていうのを，すごくそのときに．あのー，植え付けられたっていうか．あのー，頭でやることで，やっぱりこう，プレーは急激に伸びるっていうことはこういうことだなっていうのはそのときすごく感じたので．それはやっぱり具体的な1つですね．

M 氏の指導は高校時代の被指導経験の影響を受けている．自身のプレーを「文字化」し，書類として渡され頭で理解しプレーの改善に役立てた成功体験が印象に残っていると考えられる．指導者となった現在，M 氏も「プレーの文字化」という方策を取り，選手の指導を行っていることからも，その関連性が考察できる．

D 氏のライフストーリー／地域クラブ U-15
〈選手間の競争〉
D：だから今すごい葛藤してて．ジュニアユースも．試合に出れちゃう．簡単に．「それで上手くなるのかな？」って．

D：そう．逆に勝ち取らなくても試合に出れちゃうとか．それが本当にその子のためになるのかとか．だから，だから，今日もミーティングするんだけど，最低限の競争はなきゃいけないとか．でも，頑張っても出れないのはだめだなと．

D 氏は地域クラブのジュニアユース年代の指導において経験豊富な指導者である．小学生から高校生まで地域クラブでプレーしてきた D 氏は，選手間の競争が大切であると考え，それは自身の経験に起因するものであると考察することができる．しかし，その背景に地域クラブの指導者としての難しさを感じていることを認識していた．

P 氏のライフストーリー／J リーグアカデミーU-18
〈サッカースタイルの変化〉
P：いや，もうトレーニングメニューから全て変わっちゃってるんで．今の流れ，流れ的には．うん．で，ようはそのサッカー哲学も変わっちゃってるんで．

今はもう，全く真逆になってくるんで．サッカースタイルが，哲学が変われば，指導は全く違うんですよね．

P 氏は被指導経験と自身の指導との関連性の強さを否定した.P 氏は本研究の対象者の中で最もプロ選手歴が長く，現在の指導チームも自身がプロ時代のほとんどの期間在籍したチームのアカデミーである．P 氏が選手として，指導者として在籍した期間がチームの過渡期と重なったことがその要因のひとつであると考察できる．

（2）指導経験
N 氏のライフストーリー／高校部活動（男子）
〈講習会〉
N：まあ競技経験があのう，長くない，あるいは高くないっていうのを
埋めるためには，自分がどっか学びに行くしかないな．まあその，
普段で学べるのかっていうとやっぱりあのーぼくの住んでるところは，環境的に J リーグもないし．その JFL のチームもない．

N：で正直，書物だったり映像から得るものってのは，やっぱり限界があるので．まあ少ないけどもやっぱり講習会とかに行って．
まあ自分が刺激を受けてきて．で自分がそこで分かったことを
また選手に伝えていこう．

N氏は「指導者講習会」について語っている．インタビュー当時，N氏はS級ライセンス講習会に参加しており，講習会での経験が自身の指導観に大きく影響していると考えているということを読み取ることができる．在住地域にJリーグなどのトップレベルのチームや優れた指導者がいないことに対する課題意識が強く，自ら積極的に学びの場に参加し，自身の指導する選手や地域に還元したいという考えを語っている．

N氏は自身の指導がこれらの指導経験の蓄積からの影響を受けているということを認識しており，指導観形成における自身の指導経験との関連性を考察することができる．

(3) プレー経験
Q氏のライフストーリー／Jリーグアカデミー U-15
〈プロとしての姿勢〉
Q：ようはメンタリティというか，弱いやつじゃこう，這い上がれない．もっとこう細かい話で言うと，試合で外されちゃったりとか．もしも，この前半で良くなくて，そこでちょっとした挫折じゃないけど，そういうあの，自分のその，弱み，弱いところからハーフタイムを経由して，後半にこう，挽回していくとかいうか．まそういうのも含めて結局その，自分のこのねえ意識，メンタリティの強さがないと，本当のバイタリティがないと，勝負していけない世界なんですね．プロってやっぱり．

Q氏の指導はプロとしての経験から大きく影響を受けている．Q氏はアカデミー出身の選手としてトップ昇格し，10年のキャリアを積み重ねてきた経験から，多くの成功例や失敗例を目の当たりにしてきた．プロの世界を経験したQ氏だからこそプロサッカー選手を目指す選手に響く言葉があることは強みとして自覚していると考察できる．

4. 結論

本研究の目的は，サッカー指導者が選手時代に受けた指導経験と自身の指導との関連性が指導者の指導観形成においてどのような意味を持つかを考察することであった．そして，インタビューによる語りによってサッカー指導者のライフストーリーを描き出し，その関連性ついて考察した．サッカー指導者の指導観形成において，「被指導経験」と自身の指導は深く結びついており，関連性のあること指導者自身の語りから明らかにされた．また，「指導経験」や「プレー経験」も指導観形成において大きな役割を果たし，影響していることが示された．このことは指導者の所属する組織団体や所属形態，選手歴等に関係があると推測され，今後さらなる検討が必要であることが提示された．

文　　献

(1) 北村勝朗，斎藤茂，永山貴洋（2005）優れた指導者はいかにして選手とチームのパフォーマンスを高めるのか？―質的分析によるエキスパート高等学校サッカー指導者のコーチング・メンタルモデルの構築―．スポーツ心理学研究，32：17-28.
(2) 中野卓・桜井厚（1995）ライフヒストリーの社会学．弘文堂：東京.
(3) 桜井厚（2002）インタビューの社会学　ライフストーリーの聞き方．せりか書房：東京.
(4) 桜井厚・小林多樹子（2005）ライフストーリー・インタビュー　質的研究入門．せりか書房：東京.
(5) 谷冨夫（2008）新版　ライフヒストリーを学ぶ人のために．世界思想社：京都.